



村おこしNPO法人
ECOFF

あなたの地域活性化サポーター



村おこしNPO法人ECOFF 事業概要



第1期トカラ列島村おこしボランティアでのひとコマ

ECOFFは、あなたの地域活性化サポーターです。

日本のもつ“自然や文化”には、自然と寄り添って暮らしてきた長い経験によって培われた様々な知恵が散りばめられています。それは自然をどう扱うかという文化でもあり、また、その文化によって形成された合理的な自然形態でもあります。

そのような自然と文化は、これまでの日本の歴史のなかで多様な役割を果たしてきました。例えば、水田は水を貯えながら米という食物を栽培する効果的で効率的なダムと言えますし、山に植えられたスギやヒノキ等の木々は土砂崩れを防ぎ、雨水や空気を浄化するうえに建築材になるという幅広い役目を担っています。

こうした自然と文化は農林漁村に住む人々のみならず、全ての人々によって守られ、そしてこれからも保持されていかなければなりません。かけがえのない地球環境を先人から引き継いできた私たちが、同じように次世代へと受け渡すためのヒントこそ、自然のなかにある農林漁村に数多く存在しているからです。

しかし、先述したように様々な意味で豊かな自然環境がある一方、現代の社会では目先の利益や物質にとらわれてしまうことにより、広範囲にわたって美しい自然と文化が失われつつあるのも現状といえるのではないでしょうか。農林漁村からの人口流出による過疎高齢化、産業の低迷。それらは数多くの農林漁村を衰退させています。このままでは自然のみならず、その自然と共に存するために試行錯誤の末ようやく手にした知恵まで衰退しかねません。

現在、未曾有の大震災や原子力発電所での事故などを受け、多くの人々が“本当の人間のあり方”を改めて問いかけています。そうしたなか、農村での経験を求めている人々が数多くいるのも事実です。しかしながら、実際に農村での生活を経験しようとしても知り合いがないなどの原因から、なかなか実践できないのが現状です。一方で過疎に悩む農村では、都会からの人々を受け入れる体制がとれていないことが、しばしば見受けられます。

そこで、村おこしNPO ECOFFは、主として農林漁村と都市をつなげる農林漁家のボランティアの紹介事業を行い、農林漁村に有る“自然や文化”と不足している“人や産業”、都市に有る“人や産業”と不足している“自然や文化”を、人々が交流することによって埋め合わせ、農林漁村を活発にすることにより、自然と文化の保護に寄与することを目的として活動を行っています。

私たちにできることは微々たるものかもしれません。しかし、お互いに協力をすれば、より明るい日本の未来を築けると確信しています。



村おこしNPO法人 **ECOFF** 代表理事
宮坂大智



ECOFFの目的

ECOFFの村おこし3力条



知ってもらう！

来てもらう！

食べてもらう！

大切なのは、知ってもらうこと。

地域活性化に必要な要素のひとつは、まず村そのものを知ってもらうことです。どんな村にも、“その村ならでは”的素晴らしい資源が存在します。それは、村の人にとっては珍しい物ではないかもしれません。ですが、あなたの村を知つてもらう対象は中ではなく、外の人。村の外にいる人は都会にはない何かを求めていきます。

- 地域資源の調査
- 世界に向かた広報

例えば、村にある里山には素晴らしい森があるかもしれませんし、海岸には美しいサンゴ礁があるかもしれません。まずは、村のことを知つてもらうために魅力を発掘しましょう。

ECOFFでは地域資源の調査や広報活動のお手伝いをいたします。

来てもらわないと、分からない。

もちろん、知つてもらうだけでは地域の活性化にはなかなか繋がりません。そこで、村を知つてもらうことと同様、いかに人々に訪れもうらかが重要になります。しかし、ECOFFでは観光化による安易な方法で人を呼ぶことは本質的な活性化とは考えていません。

- ボランティアの紹介
- 農家民宿の紹介
- 自然体験教室

その代わり、村に興味のある方に、村での生活を体験していただく方法でたくさんの人々を呼び込むお手伝いをいたします。

そして村にやってきた人が多くの知恵を学び、農村に関心をもつてもらうのが狙いです。もしかしたら、定住を決心するキッカケにもなるかもしれません。

買ってもらって、お互い幸せに。

村を知つてもらって、来つてもらって、定住を希望する人が現れた一。しかし、村がこれからも元気でいるためには産業も必要です。多くの地域はすでに何かしらの産業を持っているはずです。しかし、都会から離れているという理由からなかなか商品の販売や営業が難しいのも事実です。

- 商品の販売事業

そこでECOFFでは、生産者のこだわりや、作業風景などをまとめたムービーと共に、生産者の顔と生産過程がハッキリと見える販売方法で、提携農家の生産物を販売しています。

ボランティアが実際に訪れてお手伝いをした農家の生産物。現場を見ている外部の人がいるということは、他のどの商品より安心できる食べ物だと思いませんか？



村おこしボランティア

農林漁業体験や田舎生活を満喫するには、ツアー形式のボランティアに参加していただくのが一番です。なぜなら、一人では参加しづらいけれど、仲間と一緒にならもっと楽しくて参加しやすいからです。

キッカケは何でもいいではありませんか。ECOFFでは、1つの滞在施設に6～7名ほどの参加者が自分たちで生活し、昼間は農林漁家のお手伝いに行くというスタイルのボランティアを企画・実施しています。

この方法は、農林漁家にも参加者にも負担をかけない方法でありながら、楽しく農林漁村での生活を体験でき、その地域の農林漁家の多くがボランティアの力を借りることができる理想的な方法です。

主な提携団体

NPO法人 トカラ・インターフェイス（鹿児島県）

一般社団法人 へきんこの会（鹿児島県）

屋久島町平内青年団（鹿児島県）

NPO XBridge（沖縄県）

社団法人 西土佐環境・文化センター 四万十楽舎（高知県）

他



商品販売

ECOFFの商品販売は普通の方法とはちょっと違います。

- 原則としてECOFFのボランティアを受け入れる農林漁家の商品のみを扱うこと
- 売るだけではなくボランティアを派遣して、商品の生産を支援すること
- 商品の宣伝ムービーをインターネットなどで公開すること

すでに公開されているムービーは、ECOFFウェブサイト (<http://ecoff.org>) でご覧になれます。

美味しいくて安全な商品を販売することはもちろんですが、それに様々な付加価値を与えて販売いたします。



活動実績

トカラ列島村おこしボランティア 2011夏

ECOFFは、2011年8月と9月に鹿児島県の離島、トカラ列島でのボランティアプログラムを実施しました。昨年度と合わせると、これまでに4回実施し、26名の方が参加しています。

地 域	鹿児島県鹿児島郡十島村 中之島および宝島
期 間	2011年8~9月のうち10日間を3回
参 加 者	19名
協 力	NPO法人 トカラ・インターフェイス オンリーワン・プロジェクト
後 援	鹿児島 県鹿児島郡 十島村



参加者のほとんどが農業やボランティア初体験だったのにも関わらず、毎日の作業や離島ならではの自然体験を思う存分楽しんでいたのが印象的でした。

実際に行った農作業は、島らっきょうの植え付け・トレッキングルートの整備・公共温泉の清掃・公共道路の清掃・畑への肥料まき・公園のあずま屋づくりなどです。

また、農作業以外にも巨樹ガジュマルに登ったり、天然記念物のトカラウマと触れ合ったり、歴史や民俗のことを資料館で学んだり、無人島に行って自然を体験するなど、さまざまな自然体験も行いました。

参加者の声



臼杵俊輔さん（法政大学）

中之島は自然が豊かで、島の人達は優しくて、知恵もあって…。10日間は長い感じはするけど、島でみんなと過ごす一日一日はとても早く、充実していた。大学生活の夏休みで大きな財産ができた。たくさんの人々との出会い。大切にしていきたい。



小原迪子さん（東京家政大学）

実際に島で生活していると、島の良いところがたくさん見えてきたけれど、負の面も目のあたりにすることができ、島への理解が深まったと思います。島の人たちとの交流が何よりの成果なのかとも思います。このボランティアに参加してこの島に来ることができて本当に良かったです。



ボランティア受け入れイメージ

村おこしボランティア（ツアーモード農業体験）の受け入れ

受け入れに必要なもの	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアにもできる仕事を提供できる2戸以上の農林漁家（ホスト） <input checked="" type="checkbox"/> 公民館などの宿泊場所 <input checked="" type="checkbox"/> 食事が参加者の自炊の場合、調理場所と食材
プログラムの流れ	* ボランティアが東京でオリエンテーションに参加 * 現地の最寄り駅に集合 → ホストが迎えに行く * 村のことや宿泊施設、作業内容の説明。参加者とホスト同士で自己紹介など * 落ち着いたらボランティア活動開始 * 最終日に懇親会を開き、翌日現地で解散。
1日の流れ (参考例)	* 朝食（参加者での自炊の場合は、早めに起床して準備） * 待ち合わせ場所へホストがボランティアを迎えに行く * ボランティア活動（ホストがして欲しい作業などを一緒にしてください） * 休憩やおやつは適当にはさんであげてください * 昼食 * 午後の作業開始（作業がなければ観光など） * お風呂・夕食 * 就寝
引率について	* 必要な場合、ECOFFのスタッフが参加者の引率をすることも可能です * 引率者はECOFFの学生インターンが行うこともあります * 引率者はツアーを円滑に進めるために参加者とホスト間の意思の疎通をはかり、万一の時の対応をするためにツアーに同行します。
終了後	* 参加者とホスト双方にアンケートにお答えいただきます。 * ECOFFへ実際の活動内容の報告をお願いいたします。 * 参加者の感想をお伝えいたします。

※ 村おこしボランティアは基本的に8,9月と2,3月に受け入れ可能です。

その他、地域のご要望に応じた
農林漁業ボランティアの受け入れが可能です。



ECOFFは、具体的にこのような事業を行います。

農林漁業ボランティア紹介

農林漁村でのボランティア体験を希望する人に、ボランティアの受け入れを希望する農林漁家を紹介する事業です。

ボランティア希望者は、まず、ECOFFにプロフィールを登録していただきます。ECOFFは、ボランティアに関するヒントや心構えを記載した冊子をお渡しし、日数に応じたボランティア保険への加入手続きを行いますので、ボランティアをする側も受け入れる側も安心です。

農林漁家民泊紹介

農林漁家民泊とは、農林漁家が簡易宿所を経営し、そこに泊まるお客様に職業体験を提供する「グリーン・ツーリズム」と呼ばれるタイプの民泊のことです。

しかし、本業と副業である民泊を同時に経営することは大変ですよね。そこでECOFFは私たちの目的に賛同する農林漁家民泊の紹介をいたします。

エコツアー

どんな村にもその村にしかない資源があります。でも、そこに長く暮らしていると、逆に自分たちの持つ資源を見落としがちです。

ECOFFは、そんな資源を掘り起こして、その村に適したエコツアーの企画を行って実施したり、支援を行ったりします。

商品販売

どんな生産者も、その生産者ならではの「こだわり」を持って商品を生み出しているはず。

ECOFFは、最新のデジタル技術を用いて生産者のこだわりを映像化し、消費者と生産者の距離を縮めた親近感のある商品販売を行います。

自然体験教室

なぜ村おこしなのか？

それは、村おこしが貴重な自然の保護と維持につながるからでもあります。だから、ECOFFではツリークライミングや川下りなどの自然体験教室の企画や支援・実施も行います。

外国人への情報提供

日本にやってくる外国人のなかには、首都圏ではなく、もっと日本の文化と風景を感じることができる“村”に憧れている外国人も多くいます。

しかしながら、日本語の不自由な外国人がそうした村を訪れるのは難しいのが現状です。

そこでECOFFでは、日本人と外国人をペアにしたボランティアの紹介を行い、日本の村での国際交流を実現します。

ウェブサイト運営

どんなにいい村や商品でも、それが人々に知られなければ意味がありません。

ECOFFは、新鮮で信頼できる情報を掲載したウェブサイトや、ソーシャルメディアを活用した情報提供を行います。

地域資源調査事業

ECOFFは積極的に全国各地の農林漁村を訪れ、その村独自の地域資源の掘り起こしや、その村に適した地域活性化の方法を提案し、必要な支援を行います。

ECOFFのボランティアを受け入れる

ボランティアの受け入れを希望される方や、質問・疑問点のある方は、お気軽に以下までご連絡ください！

メールアドレス : info@ecoff.org

電話番号 : 050-5809-3263



知ってもらう！

来てもらう！

食べてもらう！



<http://ECOFF.org>

村おこしNPO法人ECOFFは、2011年1月23日に農業や地域活性化に深い関心を持つ11人の仲間たちによって設立された非営利団体です。スタッフは20代を中心とする若手メンバーによって構成されており、現役大学生も積極的に活動に参加しています。

全てのメンバーは旅の経験が豊富で、これまでに国内外を問わず様々な地域を見てきており、並行して地域活性化に関するフィールドワークを数多く行っています。

都会生まれのスタッフ、地方生まれのスタッフ、現役大学生…。様々な経歴を持つ私たちだからこそ生まれるアイデアを活かし、日本の農林漁村を元気づけると共に、自然環境の保護・維持に貢献しようと日々試行錯誤しています。

また、日本の非営利団体の発展のために、情報の公開、学生インターンの採用、スタッフの英語教育なども行っています。ECOFFに関する資料はウェブサイト (<http://ecoff.org>) でご覧になれます。

自然環境保護・維持

地域活性化

情報の公開

村おこしNPO法人ECOFF

東京都 文京区 本駒込 2-4-12

☎ 050-5809-3263

Web: ecoff.org

Mail: info@ecoff.org

村おこしNPO法人ECOFF 事業概要

初版：2011年5月15日 第4版：2012年4月10日

発行責任者：宮坂大智

発行所：村おこしNPO法人ECOFF

東京都 本駒込 2-4-12